

令和2年度とくしまエシカル消費推進会議  
概要

日時：令和3年3月10日（水）午後1時30分から午後2時30分まで

開催方法：Web会議

概要：

- (1) とくしまエシカル消費推進会議の概要について  
徳島県から説明
- (2) エシカル消費に関する取組事例集の公表について  
消費者庁新未来創造戦略本部から説明
- (3) 徳島県のエシカル消費に取組及び令和3年度の事業について  
徳島県から説明

- (4) 会員による取組事例報告及び意見交換

会員による事例報告は次のとおり。

○（株）キョーエイ

資源ごみ回収を行っている「はっぴいエコプラザ」において、コロナ前は30店舗で資源ごみを回収していた。現在は半分の約16店舗で実施。今後どうやって元へ戻していくかを会議で話し合っていく。

「フードバンクポスト」を一昨年前から実施している。現在、農産市の「すきとく市」5箇所では農家から預かった野菜を施設の方がパッキングしている。エシカル消費ということで、お客様から見てどの商品が施設の方々が袋詰めしたのかがあまりアピールできていないため、今後は売り場でどの商品はどの施設の人がパッキングしたかが分かるようにしたい。また、すきとく市のそういった取組を動画やパネルで展示していると考えている。

○喜多機械産業（株）

社内的な取組について、社員がどのようなエシカル行動をできたかをリレーしている。自分たちが取り組んでいるエシカル行動を社内報でどんどん繋いで紹介している。

社外的な取組として、環境に優しい商品を選んで使うようにしている。水処理において、工場排水で出た汚水をきれいにする装置を取り扱い、少しでも環境に優しいもので貢献できるようにしている。

○徳島合同証券（株）

将来あってほしい、社会のためになくはない企業の商品を消費し、暴落したときは投資をして応援するということを推進している。このことを広めるために定期的にセミナー等を行っている。

#### ○阿波市観光協会

阿波市チェアリングという事業を実施している。阿波市の風景、商品の紹介を目的に、地産地消による地域の活性化の観点からエシカル消費に繋がる事業だと考えている。コロナ禍の今こそリラックスが必要。アウトドアのイスを持ち歩いて、お気に入りの場所で地元の美味しいものを食べながらくつろいでいる写真を投稿していく。それを見た人が触発されてそこを訪れたり産品を買ってくれたり自分もチェアリングして楽しんだり、波及することを期待している。現在は阿波チェアというチェアクラブを立ち上げ、部員は8人でSNSに投稿している。部員募集中。チェアリングの定義は、1人1脚折りたたみのイスで気の向くまま好きな場所に座る。なるべく手軽に、飲食物は現地調達が望ましい。そしてモラルやマナーは守る。阿波市ならではの産品のPRや地産地消を推進している。ぜひ阿波市観光協会のHPやチェアリングの投稿を御覧ください。

#### ○(有)ハイプラ

当社は45年前からプラスチックのマテリアルリサイクルに特化した会社。エシカル消費の活動としては、数年前から地元の小学校からの見学の受入れ、市高の生徒会を通じてペットボトルの利用に関する取組をしている。いろいろな資料を提供し文化祭等で発表してもらうほか、今あるもの、代えのないものについてはマテリアルリサイクルを、使い捨てるものについては自然素材への帰依を推進しようという話をしている。昨年9月に「海洋プラ問題を解決するのは君だ!」という全国の高校生が取り組むプログラムに参加し「サステナブル・ブランド国際会議」で発表した高校生たちのオンライン遠足を受け入れ、マテリアルリサイクルの方法や過程を東京大学大気海洋研究所等と組んで情報提供もしてきた。先月は大阪の中学校の授業にも参加し、プラスチックの使い方、選び方の授業をした。今後は、春には大型商業施設でのエシカル消費のイベントにも加わりたい。ボトルキャップを集めてワクチンに変える活動にも積極的に参加していこうと思っている。身の回りのプラスチックについて、廃プラスチックの専門の視点からエシカル消費の活動を続けていきたい。

#### ○障がい者就労支援センターかがやき

かがやきでは、就労継続支援B型という雇用契約を結ばない就労訓練をしている。施設では在宅障がい者が農業に従事したり、オリジナル商品のお菓子、お弁当等を作ったりしている。月1回、地域交流会をしており、その中で障がい者の作ったいろいろな商品の販売や、子ども食堂も実施している。地産地消で地域で採れた農作物も使っている。B型事業所は基本的には工賃を上げていく事業所なので、工賃向上のために職員一同取り組んでいる。

## ○徳島文理大学

本学の教育力、研究開発力を活かし、地域社会との連携を広く深め、地域リーダーとしてエシカル消費推進に取り組んでいるところ。

栽培法の開発事例として、薬学部の准教授がアオサノリ等の緑色藻類の成長因子を発見したが、徳島県や香川県で古くから栽培されていたスジアオアサノリやアオサノリ等が温暖化の影響で水温上昇があり、天然養殖の水揚げ量が急激に低下している、また原価が高騰傾向にあるという現状を踏まえ、成長因子を用いて、アオサノリの陸上養殖を目指すというプランが進行しており、改良を加え、商品化していく。

理工学部では、レタスの栽培日数を半減できるような、次世代の栽培技術を確立した。プラズマテレビから発する、肉眼では見えないパルス光を植物に照射し栽培の期間を半分にし、成長を2倍にすることができた。レタスだけでなく、野菜、果実、海藻類、ワイン用のブドウにも効果があることが分かり、地域の産業を支えるという形でエシカル消費に貢献したいと考えている。

ジビエ料理に関する取組として、短期大学部生活科学科食物専攻の研究では、シカ肉を解体し、シカ肉を美味しく食べられるレシピを開発し、学内の食堂で提供するほか、鳥獣被害の現場に行き、地域の方々と一緒に食害防護ネットを張るといった取組を進めているところ。

人間生活学部人間生活学科では、シカ肉を取ったあとの皮を加工することによって財布や装飾品を作り、商品化できないか研究を進めている。人間生活学部食物栄養学科では、牟岐町と連携し、もち麦の商品化として、パッケージデザインを学生が考え、キョーエイで販売している。もち麦を用いてスパゲッティを作るというような取組もしている。

地元の産業、特に農業、水産業を支える取組、ジビエの取組で地域に貢献していこうということでエシカル消費に取り組んでいるところ。

## ○講評（（一社）日本エシカル推進協議会 中原会長）

大変素晴らしい発表を聞いて、さすが徳島だなと感じがした。特に印象に残ったのはキョーエイのフードバンクへの取組、またいろいろなところで取組があったと思う。国連のSDGs プログレスレポート 2020 の中で、一番取組が遅れている問題が貧困問題、そして海洋生物の保護の問題が大きいとのこと。

皆さんの話を伺って非常に感銘を受けたのは、貧困問題への取組が特に地方へ行けば行くほど出てきているのではないかと感じている。以前、徳島のフードバンクへ訪問することがあったが、コロナ禍で仕事をやめてくださいと言われて職場から追い出されるケースがある。一人親家庭の子どもたちが大変な目に遭っていて、なんとか支援したい。こういった地方が抱えている問題や地域住民に寄り添って活動することができるのがこの会議の役割だと思っているので、ぜひ地域の発展のためにも頑張っていたいただきたい。豊かになるのはいいけれど、貧困を招くような社会を作ってしまったのではそれは決してエシカルではない。渋沢栄一氏は道徳経済といういい方をしているが、利益の発展と社会の発展を同時にやらないといけない。まさにエシカルな経済の営みをしないとイケないということで、ぜひ皆さん頑張っていたいただければと思います。